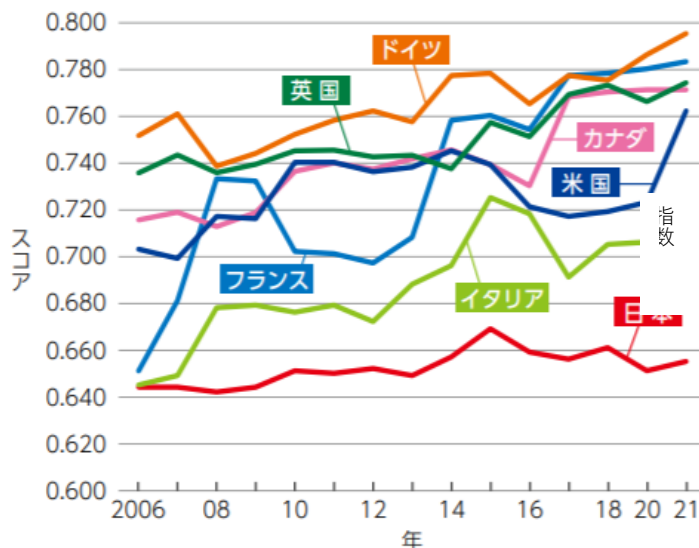


問 世界経済フォーラムが2021年3月、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数を公表しました。この指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。

### ジェンダーギャップ指数(2021) 上位国及び主な国の順位

順位	国名	値	前年値	前年からの順位変動
1	アイスランド	0.892	0.877	-
2	フィンランド	0.861	0.832	1
3	ノルウェー	0.849	0.842	-1
4	ニュージーランド	0.840	0.799	2
5	スウェーデン	0.823	0.820	-1
11	ドイツ	0.796	0.787	-1
16	フランス	0.784	0.781	-1
23	英国	0.775	0.767	-2
24	カナダ	0.772	0.772	-5
30	米国	0.763	0.724	23
63	イタリア	0.721	0.707	13
79	タイ	0.710	0.708	-4
81	ロシア	0.708	0.706	-
87	ベトナム	0.701	0.700	-
101	インドネシア	0.688	0.700	-16
102	韓国	0.687	0.672	6
107	中国	0.682	0.676	-1
119	アンゴラ	0.657	0.660	-1
120	日本	0.656	0.652	1
121	シエラレオネ	0.655	0.668	-10

### 主要5か国のジェンダーギャップ指数の比較



### 各分野における日本のジェンダーギャップ指数

分野	スコア	昨年のスコア
経済	0.604	0.598
政治	0.061	0.049
教育	0.983	0.983
健康	0.973	0.979

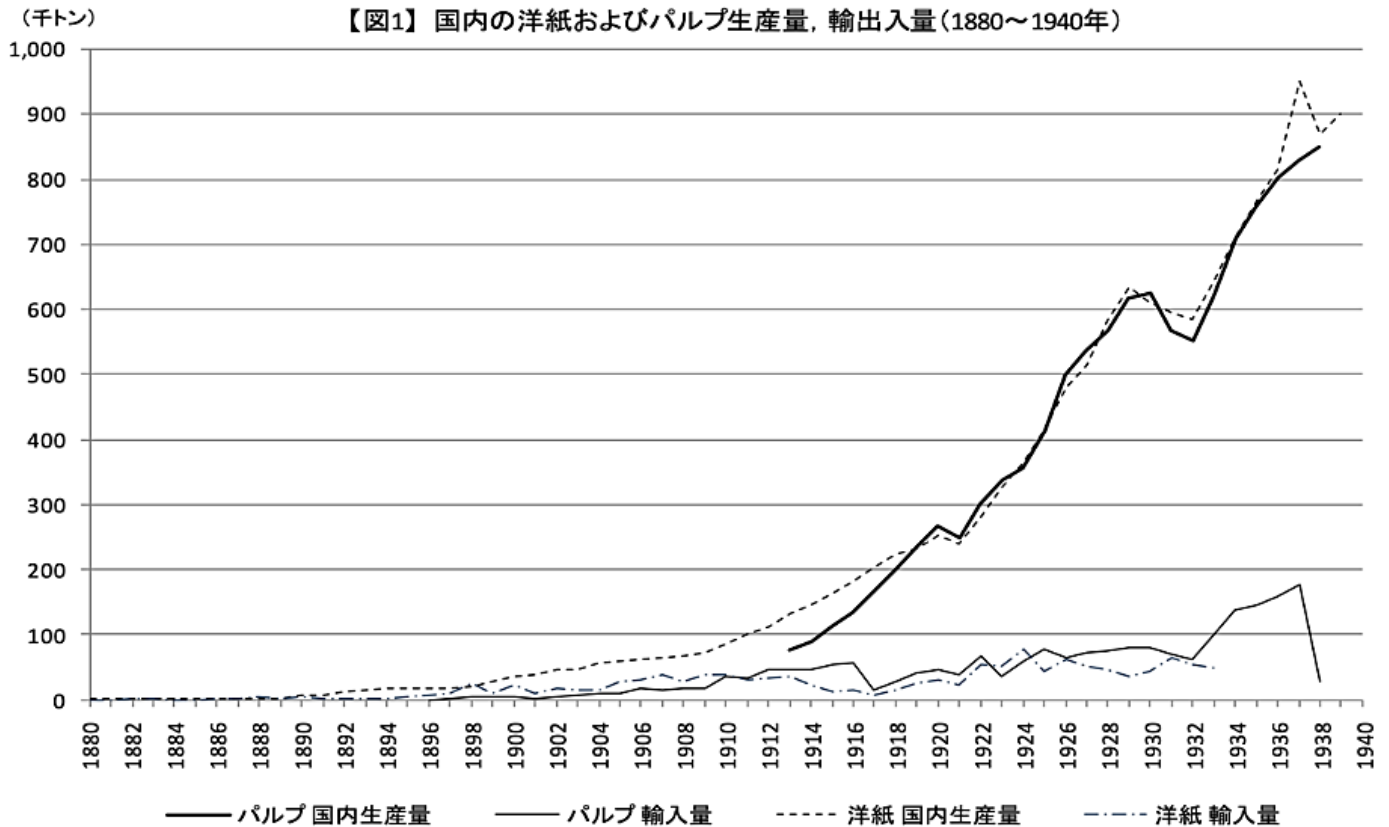
2021年の日本の総合指数は0.656、順位は156か国中120位（前回は153か国中121位）でした。前回と比べて、指数、順位ともに、ほぼ横ばいとなっており、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となっています。

ジェンダーギャップ指数の順位を上げるために、日本社会ではどのような取り組みが必要ですか。「経済」「政治」「教育」「健康」の中から特に改善が必要だと思ふ分野を1つ選び、それを選んだ理由と、必要な改善策を説明しなさい。

問6 「製紙業」について、以下の(1)～(2)の問いに答えなさい。

図1

【図1】国内の洋紙およびパルプ生産量，輸出入量(1880～1940年)



パルプ：紙の原料で、繊維の状態のもの。明治時代、パルプは主にヨーロッパからの輸入に頼っていた。

洋紙：西洋式の製法でつくられた紙。日本の和紙は表面がデコボコしていて印刷に不向きだったため、日本でも洋紙が生産された。

(1) 図1を見ると1890年頃から洋紙の国内生産量が増え始め、以後生産が一気に増えています。なぜ、この時期に生産が増えたと考えられますか。その社会的な背景としてふさわしくないものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 日本が多くの戦争にかかわったことで新聞がたくさん発行されたから。
- イ. 教育制度が整い識字率が高まったため、教科書、ノートの需要が高まったから。
- ウ. 郵便制度が整い、封筒や便せん、はがき、切手類の需要が高まったから。
- エ. 雑誌や週刊誌、マンガの人気によってたくさんの書籍しよせきが発行されたから。

(2) 図1で1914年頃以降にパルプの国内生産量が急増していった大きな理由の1つは第一次世界大戦でした。なぜ、第一次世界大戦が始まるとパルプの国内生産量が増えるのですか。その理由を簡潔に説明しなさい。